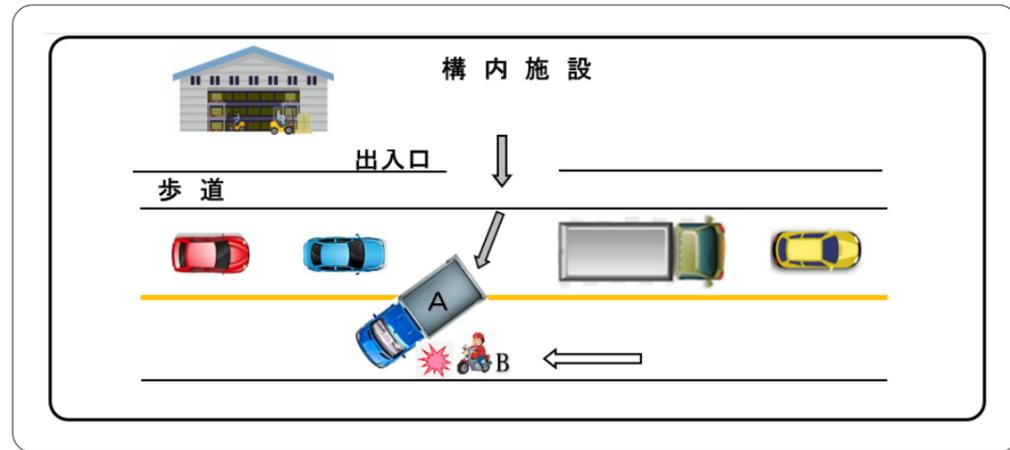


職場における交通安全指導

Part 14 1

車道に出た際、渋滞で停車中の大型トラックが死角となり二輪車と衝突



■事故の概要

- 事故の当事者
当事者A（中型貨物車）：50歳代、男性
当事者B（自動二輪車）：20歳代、男性
- 被害状況
A：車両左前部小破
B：重傷(右足首骨折、頭部打撲等)
車両前部大破

事故状況

運転者Aは、運送会社に勤務して25年になる中型貨物車の乗務経験が豊富なドライバーである。

事故当日は、県内のスーパーマーケットなどに配送する冷凍食品等の積み込みを行っていたが遅れてしまい、急いで納品店舗に向かうため構内から出発し片側一車線の国道を右折合流しようとした。

その際、手前の車線は渋滞により停車している状態であったものの、構内出入口の前のスペースは空いていたので、Aは左方停車車両が大型貨物車で左方に死角が生じていたが、十分な安全確認を行

わず、構内出入口から一気に車道に右折進行したため、左方から直進進行してきた自動二輪車Bと衝突して転倒させ、Bに重傷を負わせた。

事故の原因

この事故の原因は、Aが渋滞で停車している大型貨物車によって左方が死角となり見通しが悪い状況であったのに、構内施設から出る際に一時停止することなく、また、死角になっている左方の安全確認などの行動を起こさず、安易に右折進行したことです。

安全指導

構内は荷の積み下ろしのための車両が頻繁に出入りしており、荷積みの時間もその時々で遅くなってしまうり、少し待たされただけでイライラして「先急ぎの心理」に陥ってしまい、その後の運転行動に現れ、強引な運転をしてしまいがちになります。

「無理をして事故を起こせば一生を棒に振る」と自分自身に言い聞かせることが重要になります。

今回の事故は、構内から車道に出た際の事例ですが、構内等の出入りによる事故パターンやその防止策となる指導ポイントについて理解してください。

1. 構内を出る際の事故防止

あわてて構内から出庫し起こす事故や仕事を終え気持ちが緩むことにより、公道を直進してきた車両や二輪車と衝突するケースが多発しています。

このような事故は、相手方の速度が出ている場合が多く、重傷事故につながっています。

構内から公道へ出る際は十分に気を付けなければなりませんので、次の指導ポイントに留意してください。

【指導のポイント】

- ①構内出口では必ず一時停止して左右の安全確認を十分できる位置までゆっくり車両を進めて、歩行者や自転車・二輪車等の存在を確認する。
- ②右左折のウインカーは早めに出して、周囲に自己車両の存在と次の行動を知らせる。
- ③構内から公道へは前進出庫が基本で、やむを得ずバックにて出庫する場合は、構内に居る人や他の運転者に誘導や安全確認を依頼して安全を確保。
- ④相手車両や二輪車等を認知した時は、相手車両などが通過するまで待つ等、ゆとり運転を心掛ける。

また、構内における事故は会社の信用・信頼問題に繋がりますので、構内に入る際や、構内での作業、移動についても留意してください。

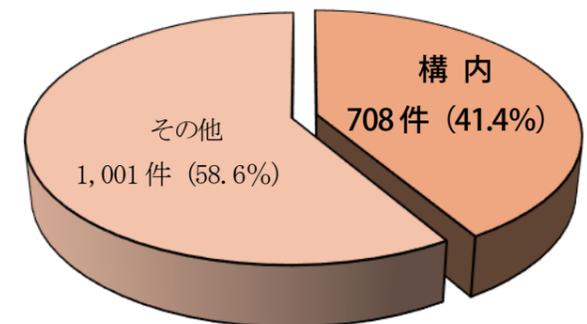
2. 構内へ進入する際の事故防止

車道から左折して構内へ進入する際、左側方進行の二輪車、歩道通行の自転車や歩行者を巻き込む事故、あるいはバックで進入する際、構内入口付近の門柱や扉に接触する事故が発生しています。

【指導のポイント】

- ①左折の合図を出したからといって、一気に左折せず、サイドミラーや目視により二輪車等の存在の確認を十分に行い、再度安全確認したうえで、最徐行で左折する。
- ②やむを得ずバックで進入する場合は、荷主先の人や近くのドライバー等に誘導してもらうよう心掛ける。
- ③誘導してもらえない人がいない場合、必ず下車して後方の安全確認を目視で行い、ゆっくりと後退を開始する。その際、窓を開け車外の音が聞こえるようにしておく。

2024年度受付 構内事故の比率



構内事故の対物では前年度比20件(2.9%)増加の708件となり、対物事故全体の41.4%と依然として高い割合を占めました。